

# ほおぼる幸せ。富山米



## 【推進目標】「元気な富山米ブランド」の確立 ～ほおぼる幸せ。富山米～

- |                 |   |                               |
|-----------------|---|-------------------------------|
| 1. 高温に打ち勝つ米づくり  | ▶ | ● うるち米1等比率 90%以上              |
| 2. 低コストな米づくり    | ▶ | ● 移植コシヒカリ面積率 60%              |
| 3. 「安全・安心」な米づくり | ▶ | ● 水稻直播栽培面積 4,000ha            |
|                 |   | ● 「とやまGAP」の実施、<br>生産履歴記帳率100% |

平成25年産米は、作柄は作況指数102の「やや良」となったものの、登熟期の高温等による白未熟粒の発生により、品質が低下しました。

富山米のブランド価値を上げるため、地域の品質低下課題に応じた技術対策を徹底しましょう！

# 「元気な富山米ブランド」のための重点技術対策

～ 1等米比率90%以上を目指して～

## 適期作業のため、適正な品種構成を

近年の高温傾向のなか、稲の生育が早回り、特に「移植コシヒカリ」で生育ステージや気象に応じた管理が遅れ、品質低下につながっている事例があります。コシヒカリの高品質・安定生産のため、労働力や機械設備など経営体・地域に応じた品種構成への是正をお願いします。

### 【目標品種構成比】

早生20:中生60:直播コシ10:晩生10

- 高温登熟に強い「てんたかく」「てんこもり」の導入
- 出穂期が遅くなる「直播コシヒカリ」の作付拡大

H25に多発した白未熟粒



図 白未熟粒(左:乳白、中:基白、右:背白)

## 1 高温に打ち勝つ環境づくり

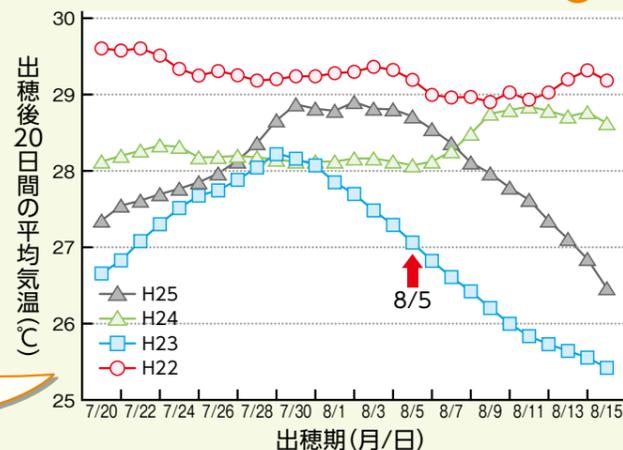
- 堆肥やケイ酸質資材等土づくり資材の積極的施用
- 積極的な深耕しで作土深15cm以上の根域確保
- 土壌診断に基づく施肥改善



## 2 高温を回避する

- 「コシヒカリ」は、5月15日を中心とした田植えの徹底
- 田植えにあわせた播種・育苗作業で老化苗を防止
- 「コシヒカリ」直播栽培の導入で作期幅を拡大

出穂期が遅くなると、白未熟粒が多くなる平均気温27℃を回避できる。



## 3 高温に打ち勝つ稲体作り - 適正生育量への誘導 -

- 栽植密度70株、植付本数3~4本、植付深さ3cmの徹底
- 土壌条件に応じた基肥窒素量の確保  
砂壤土3.0~4.0kg/10a、埴壤土1.8~2.6kg/10a
- 田植え後1ヶ月頃を目安に溝切りと中干しを徹底(乾きすぎに注意!)
- 幼穂形成期以降は飽水管理(足跡に水がたまる程度に)
- 生育や気象に応じた穂肥の施用 ▶ 過剰籾数を回避



植付深さ 1cm 3cm 5cm  
株当たりの茎数 19.0本 16.3本 11.6本  
深植えで茎数不足  
植付深さと初期生育の関係(7葉期頃)

中干・間断かん水  
適切な圃場

整粒歩合  
72%



中干・間断かん水  
不十分な圃場

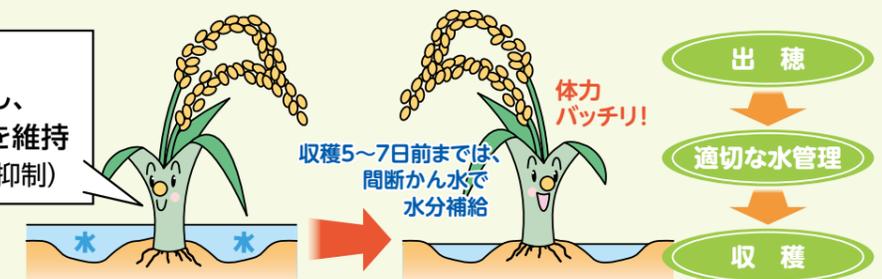
整粒歩合  
49%

出穂期までに十分な根量を確保!

## 4 登熟期の稲体の活力維持

- 穂揃期の葉色を4.2~4.5(砂壤土は4.5)に誘導  
生育・気象状況等に応じて、追加穂肥を施用
- 出穂後20日間の湛水管理を徹底(水の入替えを忘れずに)
- 刈取り5~7日までは間断かん水(フェーンが予想される場合は事前に入水)

出穂期から20日間は、  
田面水の深さを2~3cm程度とし、  
田面が露出しないよう湛水状態を維持  
(稲体の活力維持・カドミウムの吸収抑制)



### ※カメムシ防除は確実に!

- 穂揃期の防除は遅れずに(出穂後3~5日目を目安)
- 「てんたかく」など早生は、穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底(防除間隔は7日を目安に)
- 防除後もカメムシの発生が多いところでは追加の防除を実施

## 5 適期刈取りで青米・胴割米の発生防止

- 気温の推移が平年並みの場合は、積算温度1000～1050℃、籾黄化率85～90%で刈取り
- 高温年の場合は、積算温度950℃、籾黄化率80%で刈り始め



## 6 適切な乾燥調製

- 玄米水分14.5～15.0%の徹底
- 1.9mmふるい目の使用で選別を徹底
- 施設や設備の点検・清掃を徹底して、異品種・異物の混入を防止



## 安全・安心な米づくり

- 消費者に選ばれる富山米を安全に生産するため、「とやまGAP」に取り組みましょう。

### 『とやまGAP(ギャップ)』とは

富山県では、富山県適正農業規範に基づく適正な農業生産活動の実践を「とやまGAP」と称し、その取組みを推進しています。

まずは、「とやまGAP事故点検シート」を活用して自らの農場における不適切な行為や状態である「BAP(バップ)」がないか点検し、それらの改善に努めましょう。

### まずは、自己点検!



### <とやまGAPの目的と取組例>

#### 【安全な農産物の生産】

農業・肥料の適正な使用や管理、生産履歴記帳 など

#### 【環境の安全】

廃棄物の適正処理、農薬散布後の1週間止水管理 など

#### 【農業者の安全確保】

危険箇所の把握、機械の点検・整備、保護具の着用 など

項目	状況	対策
1. 作業場の安全・衛生管理に関する取組	○	
2. 労働者の安全・衛生管理に関する取組	Δ	
3. 農薬の適正な使用に関する取組	X	